

中学校 国語

平成31年度(令和元年度)
全国学力・学習状況調査

調査問題の内容

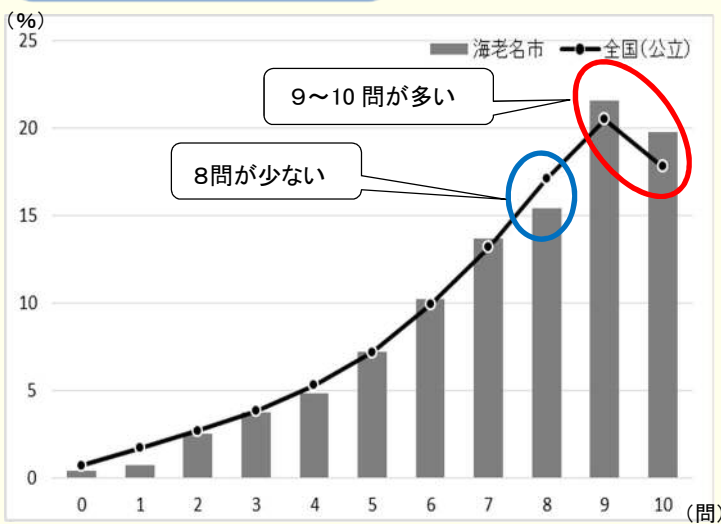
学習指導要領に示されている各領域に基づき、話合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていないうこと」について自分の考えを書く問題や広報誌の一部にある情報を用いて、意見文の下書きに「魅力」の具体例を書き加える問題、語の一部を省いた表現についての説明として適切なものを選択する問題などが出題されています。

全体の結果

	海老名市	神奈川県(公立)	全国(公立)	全国との比較
平均正答率	74.4%	73.0%	72.8%	1.6
平均正答数	7.4/10問	7.3/10問	7.3問 /10問	0.1

平均正答率…平均正答数を問題数で割った値の百分率。

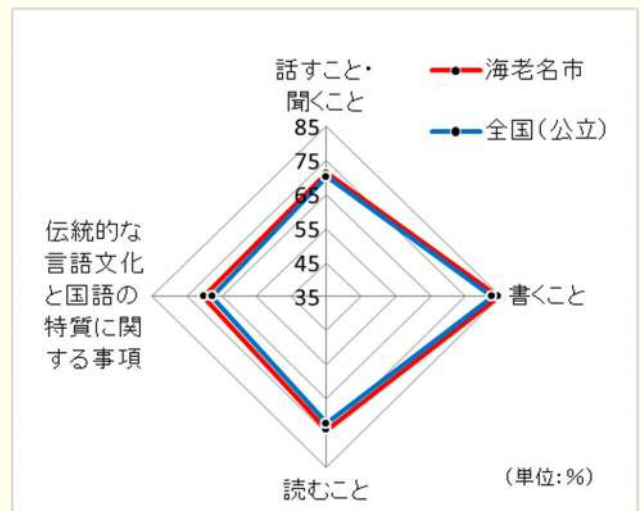
正答数分布グラフ (横軸:正答数、縦軸:割合)



- * 正答率 50%以下(0~5問)の生徒の割合は 19.3%です。【全国は 21.4%】
- * 正答率 80%以上(8~10問)の生徒の割合は 56.8%です。【全国は 55.4%】
- * 中央値は8問です。【全国は8問】

中央値…正答数を大きさの順に並べた時に真ん中に位置する値。

学習指導要領の領域等の平均正答率



全ての領域において、
全国と比較して上回っています。

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象問題数	平均正答率(%)			平均無解答率(%)		
			海老名市	全国(公立)	全国との比較	海老名市	全国(公立)	全国との比較
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3問	71.3	70.2	1.1	2.1	3.1	-1.0
	書くこと	2問	84.2	82.6	1.6	3.0	4.2	-1.2
	読むこと	3問	74.1	72.2	1.9	0.6	0.6	0.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	2問	70.2	67.7	2.5	2.1	3.4	-1.4
問題形式	選択式	6問	75.3	73.6	1.7	0.2	0.4	-0.2
	短答式	1問	60.1	56.8	3.3	3.4	5.6	-2.2
	記述式	3問	77.7	76.5	1.2	4.6	6.2	-1.6

海老名市の結果についての分析

- 平均正答率、平均正答数、中央値を見ると、全国と比べてやや上回っています。
- 平均正答率が全国を上回った問題は、10問中10問です。また、平均正答率が80%以上の問題は、10問中4問(全国は3問)です。
- 問題形式から見ると、平均正答率が80%以上の4問のうち、3問が「選択式」の問題です。
- 無解答率が全国よりも高かった問題は10問中1問です。特に、記述式の無解答率が低い傾向がみられます。

全国の正答率と差が見られた問題の例

中学校国語のすべての問題は、国立教育政策研究所のホームページで見ることができます。

7 7区 2019年(平成31年)4月14日(日曜日) 全国中学生新聞

◆◆◆◆◆ 声の広場 ◆◆◆◆◆

今年こそ優勝!!
孫也 悠斗
孫也 悠斗

(中2・野球大好き)

私を助けてね
私を助けてね
私を助けてね

(中3・こねこ)

みんなの短歌

目が覚めるシリシリと鳴る朝が在場大分の朝
まらまらした。

今回は、新年度を迎えたフレッシュな心を表現した作品を集めました。

「讀書より」シリシリを鳴る前に」と「胸が膨らむ」という表現から、いつかは目覚まし時計の音で起るこの日の朝は、胸がどきどきして目覚まし時計が鳴る前に起きてしまいたくても想像できません。入学式の朝は、新しい生活に慣れるために、涙を流さない気持ちになるものです。

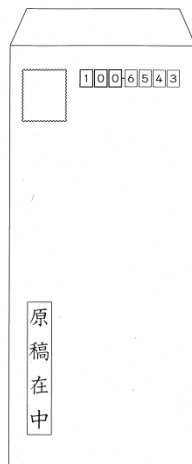
新しい1教科取り出して準備はして始まりを持つ
志願の朝でも、夜間授業が楽しそうと
春風がいつもの道を駆け抜ける音の足取り自然と軽くなる
中三 松田 花子

中一 内山 誠一

中二 藤川 りか

■投稿先
〒100-6543 東京都千代田区中央3
全国中学生新聞「声の広場」係
FAX 03-123-xxxx
メール zenkoku@xxxxxx

▼イラストははがき大。「みんなの短歌」は1通に2首まで。
▼氏名、学年、住所、電話番号を明記。
イラストはペンネーム可。



※左の枠は、下書きに使って構いません。郵便は必ず封筒に書きます。

四 あなは、「声の広場」への投稿を封筒で送らなければならない。この条件1と条件2にしたがって、書いていかに書きなさい。なお、自分の名前と住所は不要です。

条件1 封筒の書き方に注意して、縦書きで書いてください。

条件2 投稿先は具体的なので、「様」ではなく「御中」と書くこと。

1 情報を読む(新聞)

趣旨 封筒の書き方を理解して書くことができる

正答は省略

◇この問題の正答率

海老名市	60.1%
全国(公立)	56.8%
(全国との比較)	+3.3)

考察

- 文学的な文章や説明的な文章などを扱うときに、感想を書いたり、他者と交流したりすることを通して、自分の考えを深めることについて成果がみられます。
- 教科書に出てくる文だけに限らず、記録文や通信文など様々な文の形式や内容に触れる機会を設けるような指導の工夫が求められます。

指導の改善に向けて

◆必要な情報を整理するために

- 文章の構成や展開、表現の仕方について分析するだけでなく、そのような表現をした書き手の目的や意図を読み取ったり、その効果について考えたりすることができるように指導します。

◆話し合いの話題や方向を捉えるために

- 話し合いをおこなうとき、話し合いの話題や過程を確認することができるように、記録の仕方を工夫しながら指導します。